

1 教育委員会

令和元年度の教育委員は、前年度から継続して同じ委員による構成となっている。学校、児童生徒・保護者、地域住民を取り巻く様々な課題に迅速かつ丁寧に対応すべく、各委員の更なる職責の遂行を期待したい。

2 学校教育課・指導室事業

(1) 教育環境の整備・充実

令和元年度は、小学校2校の改修事業と小学校2校の改修・増築の実施設業務が実施された。学校施設の長寿命化計画に基づく整備が計画的に進められたことを評価する。郷州小学校校舎改修の実施設では、校舎の長寿命化のほかバリアフリー化も進められていることは、時代のニーズに応じた適切な対応である。多額の予算が伴う大規模改修は「百年先」を見越した校舎改修であってほしい。

児童数の増加に伴う黒内小学校の校舎増築の実施設は、児童の学習環境に直結する事業である。大規模改修同様、将来を見通した設計であってほしい。

(2) 学校教育プラン

① ステップアッププラン（確かな学力の育成）

確かな学力の育成は、学習内容の基礎基本を児童生徒に確実に身に付けさせるという重要かつ喫緊の課題である。茨城県学力診断テストにおける守谷市の正答率合計の4年間（H29～R1）の推移は、小中学校各学年において、非常に優秀な結果を得ている。各数値が高位で安定している点を高く評価したい。他市町村に先駆けて守谷市が独自に実施している様々な先進的な取り組みを今後とも継続的に実施していくことを望みたい。

② ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）

過度な情報化、家庭・社会環境の悪化、人間関係の希薄化等によって、児童生徒を取り巻く環境は必ずしも好ましい方向にばかり向いているわけではなく、子ども個々の課題も多様化・複雑化している。不登校の出現率は年々増加傾向にあり、県や国の動向もほぼ同様の状況である。道徳教育の充実や自己有用感の育成を図り、児童生徒の豊かな心の育成を図っていかなければならない。

このような状況下において、守谷市の総合教育支援センターの事業に係る包括的な教育支援活動の充実を評価したい。特に、支援センター相談員による訪問相談が増加傾向にあり、相談事業（来所相談・電話相談・訪問相談）が半数を占めている。訪問型の「アウトリーチ」の件数も増加している。今後も個別事情を抱える児童生徒や保護者への手厚い支援を期待したい。

③ ヘルス&フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）

体力テストA+Bの達成率はやや低下傾向がみられる。特に中学校では全中学校で達成率が目標値を下回っている。「体づくり運動の充実、ベースボール型やゴール型の授業の工夫」（守谷中）、「体づくり運動の充実、運動部活動での走り込みの強化」（愛宕中）、「計画的な体力アップメニューの推進」（御所ヶ丘中）、「体育授業の充実（活動時間の増加、運動量の確保）」（けやき台中）など、各校が三年間を見通した指導計画を推進しているので、今後の児童生徒の体力の向上を期待したい。

④ ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

英検3級以上を取得した中学校3年生の割合は、2年連続で50%を超え、茨城県・国の平均値を大きく上回っている。平成13年度から市内全小中学校にALTを配置し、授業を始めとして学校の日常生活においても外国語に触れる場面を多く設けるなど、様々な工夫を重ねて継続的に外国語教育を実施した結果、英語好きな児童生徒を育み、結果として英検3級取得率に表れてきている。

小学校ではALTの配置を大規模校で増員したことにより、全ての外国語に係る授業にALTが参加した。授業以外でもALTの積極的活用により外国語に触れる場面が多く設定された。小学校児童への意識調査の結果では、「ALTと話したり活動したりすることは楽しい」との答えが90%を超えている。今後も他市町村に先駆けた先進的な外国語教育の推進を図ってもらいたい。

⑤ パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携）

学校が情報を積極的に発信することで、学校と家庭・地域の連携、協力がより一層密接となり、開かれた学校づくりが図られていく。各小中学校はHPを活用して情報発信に積極的に取り組んでいる。保護者・地域からは「学校経営方針や教育活動の様子を伝えている」（守谷小）との肯定的な回答（85%）を得ている。今後も学校と家庭・地域の連携強化が図られることを期待する。

（3）学校教育改革プラン

① 守谷型カリキュラム・マネジメント

新学習指導要領の実施に伴い、学校教育の改革は時代の要請であるとともに喫緊の課題でもある。カリキュラムの改革を通して児童生徒の学びの質の保障や教職員の働き方改革に繋げていく「守谷型カリキュラム・マネジメント」の推進を評価したい。6時間授業を削減し「週3日の5時間授業」を実施することで、児童生徒・教職員双方に時間的ゆとりが生まれている。8割以上の児童生徒が「放課後の生活の充実」を感じている。教職員にとっては、教材研究や事務処理が勤務時間内に行えることが多くなり、退勤時間が早まっている。守谷型カリキュラム・マネジメントの成果が継続的に表出されるように、教職員の時間的なゆとりが効果的に活用できる体制づくり・意識改革等に向けて、今後も工夫改善を期待したい。

② 市・学校いじめ対策本部の設置

市や学校によるいじめへの適切かつ迅速な対応ができる体制整備は、待ったなしの状況である。いじめの未然防止・早期発見・再発防止に向けて組織的に対応するための「いじめ対策本部」の設置を評価します。

いじめ認知件数が平成29年度の2倍（小中学校合計194件）になっていることは、「いじめ対策会議」の実施によって教職員のいじめ認知力の向上につながっているためと思われる。また、「いじめ対策指導員」の配置によりいじめ対策会議での指導助言が効果的に行われ、迅速かつ組織的な対応を可能にしている。今後も「いじめはどの学校にも必ずある」との共通認識のもと、迅速かつ組織的な対応を期待する。

③ プログラミング教育の推進

新学習指導要領の実施による「プログラミング教育」の推進は、ひとえに指導者の育成が成否の鍵を握っているといっても過言ではない。小中連携による児童生徒の発達段階に応じたカリキュラムの作成、プログラミング教育をスムーズに進める

ための校内研修へのICT支援員の派遣を評価します。すべての教職員がプログラミング教育に精通しているわけではない。新しい時代に対応できるプログラミング的思考力を児童生徒に育むために、指導者の育成と系統的な指導内容の充実が図られることを期待したい。

④ 中央図書館との連携による学校図書館の充実

学校図書館の充実のためには、蔵書の質と量の確保が必須である。予算的なことを考慮すれば、中央図書館との連携は学校図書館の蔵書の「質と量」の確保に効果的な対策と考える。また、学校司書が授業づくりに参加し、ブックトークや読み聞かせ、調べ学習の支援、資料の提供等、授業での読書活動の推進を積極的に行ったことを評価します。

3 給食センター事業

令和4年度からの稼働を目指して、新給食センターの設計業務が進んでいる。衛生的で安全な調理環境を確保するために、次年度の工事着手が順調に進められていくことを期待したい。

4 生涯学習事業

(1) 自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供

公民館講座を中心に多様な学習機会が提供された。講座や公民館まつりの企画には、普段公民館を活用している地域の方々の参画を図ることで、市民のニーズに応じた講座等の提供を行うことができた。公民館講座に満足している参加者の割合が9割を超えていることを評価したい。

(2) 生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援

全国大会等出場奨励金について、交付条件を緩和したり、対象となる大会を拡大したりした結果、令和元年度の交付額が前年度に比べて2倍となっている。市民の健康づくり、文化意識高揚に資するための奨励金については、スポーツや文化活動において全国規模で活躍する市民の活動の支えとなっている。また、広報紙への写真掲載が多くなり、広く市民に認知されることでさらに良い結果につながることを期待できる。掲載スペース確保の課題もあると思うが、今後も予算増額を含めて、手厚い支援を期待したい。

(3) 親しみを感じる芸術・文化の推進

「思ったよりクオリティの高い設備、内容でした。」(夕べのコンサート来場者)との声があり、市民の期待が大きいことを感じる。出演団体は減少したが来場者数は増加している。守谷の夏の風物詩として定着してきている。市民が気軽に音楽を楽しむ場の提供を今後も継続的に進めてほしい。

(4) 文化財を愛する心の育成

「守谷ふるさとかるたの大会があれば参加したい」「守谷市の歴史を学ぶ講座を開催してほしい」などの意見があるように、郷土の歴史・文化財の理解に対する市民の潜在的な欲求をうかがい知ることができる。八坂神社祇園祭や守谷城址の認知度は高いというアンケート調査の結果をてこに、他の文化財の周知・認知度を高めていく取り組みを検討していただきたい。

(5) 安心して遊べる場の提供

すべての児童の安全・安心な居場所を確保するための放課後子ども総合プランの推進を評価する。児童クラブは、早朝保育（午前7時から）に加え、延長保育（午後7時15分まで）の実施によって利用者の利便性が図られている。保護者からは「安心して仕事ができている、とても感謝しています。」との声が届いている。利用している子どもからも、「いつも工作などの企画がいっぱいあってうれしい」という感想が上がっている。本事業に対する子ども・保護者からの期待が大きいことを感じる。

今後も待機児童ゼロの取り組みや活動内容の充実を継続的に実施していくことを期待したい。

5 図書館事業

(1) 市民の求める図書や情報の収集、提供、保存

市民にとって魅力的な「図書館」とは、新しい図書への入れ替えが行われていて蔵書数が豊富であり、読みたい本が待つことなく手に入ることである。また、インターネット社会においては、ネットによる検索や貸し出しの申し込みで利便性を感じることができることが重要である。守谷市の図書館運営は全般的に魅力度の高い運営となっている。市民の文化教養の向上のために多くの資料が自由・公平に提供され、図書館利用が促進されていくことを今後も期待したい。

(2) 未来を担う子どもたちの読書活動の推進と、学習活動支援

小学生以下の子どもを対象としたブックラリーやおはなし会の取り組みを評価する。出張おはなし会の実施は図書館の積極的な姿勢の証であり評価したい。学校図書館との連携は今日のネット社会の中であっても、重要な活動である。学校への団体貸出の増加やブックトークが倍以上の伸びを見せたことを評価する。また、小学校を対象としたブックパックの取り組みも評価する。ネット社会が進み、子どもの読書離れが一段と進んでいる。そのような時だからこそ、「手に取って読む活字（書籍）」の存在を大切にしていきたい。今後も継続的な取り組みを期待したい。

(3) 市民との協働により、市民が集い、学び活躍できる場の整備

図書館と市民ボランティアの協働による各種行事が展開された。市民参加型ボランティアによるおはなし会が数多く開催され、ボランティアの活動成果を市民に還元していくことができた。

《総括》教育委員会の全体評価

教育は人への投資である。子どもを教え育むことは未来への投資であり将来に渡って守谷市を発展させる礎である。そのための教育委員会の各種事業の多くが「人への投資」である。例えば、守谷市が10年以上に渡って先進的に展開している外国語教育推進のALT、個に応じたきめ細かな指導のための小学校1・2年生の学習支援ティーチャー、特別な支援が必要な児童生徒への介護補助員、様々な教育ニーズに対応する相談員などは、子どもにかかわる貴重な人的財産である。「人への投資」が継続的・効果的に行われることで、将来の守谷の子どもたちへの教育成果として表れてくる。

守谷市の教育委員会は、これらの教育的財産ともいえる人材に多くの予算をかけてきた。「人を育てる」とは「よき人材を育てる」ことである。予算をかけ時間をかけてよき人材を育て、守谷の子どもたちの豊かな未来を育んでいくことを期待したい。